

2 肉用牛法人農場における生産性向上の取り組み

北部家畜保健衛生所

○小山大地・鈴永真士・小杉真樹

当所管内の(一社)無角和種振興公社(以下、公社)は、山口県特産の無角和種を飼養する繁殖センターを所有し、牛肉の供給や耕畜連携の取組により、地域農業の重要な拠点として多大な貢献をしてきている。しかしながら平成 29 年頃にはマンパワー不足により、家畜観察や飼養管理時間の確保が難しく、繁殖成績の低下や肥育牛の増体成績等に課題があった。これらの課題解決に向けて、関係機関で構成するプロジェクトチームの指導の下に経営の改善を進めており、その中で当所の取り組みと成果を報告する。

1 家保の取り組み

1) 子牛生産性の向上

2 週間毎の繁殖検診により発情周期の把握と適期の人工授精を指導した。併せて、空胎期間の短縮に努めた。また分娩管理の徹底や子牛の防寒対策の指導を実施した。

2) 肥育牛の増体成績の向上

毎月肥育牛の体重測定を公社、阿武町と協働して実施、個体ごとの健康状態や増体を確認することで、適正な群編成による肥育管理や出荷牛の見極め等の指導を行った。

3) 山口型放牧の推進

無角和種の粗飼料利用性や放牧特性を生かすため、山口型放牧の取組拡大を推進し、繁殖牛をレンタカウとして活用することで、飼養管理の省力化と集落営農法人等との耕畜連携強化を図った。

2 成果

1) 子牛生産率は 67.6%から 78.5%まで上昇し、年間子牛生産頭数は 33 頭から 43 頭へ増加した(平成 30 年度から令和 4 年度、以下同じ)。また、子牛事故率は年度ごとにばらつきはあるものの、2.7%から 2.3%で推移した。

2) 毎月の体重測定を実施することにより、疾病の早期発見・早期治療が可能となり、また出荷体重が斉一化された。また、肥育牛の出荷時平均体重は、543 kgから 595 kgに増加し、公社の肉牛販売収入が増加した。

3) 集落営農法人等との耕畜連携強化による農地への飼料作物作付・放牧利用を実施し、放牧実績は延 4,737 頭から 4,022 頭で推移した。

3 今後の取り組み

無角和種振興への取り組みは、若い地域おこし協力隊の活動や、マスコミの取り上げによって新しい光があたっている。当所では引き続き、子牛生産率の向上や事故率の低減及び肥育増体性の確保を指導するとともに、飼料設計の改良指導により課題となっている無駄な皮下や筋間脂肪の低減を図るなど、経営改善支援に取り組んでいきたい。